

科目名	社会福祉方法論研究 [院]					単位	2.0
担当教員	安井 理夫						
授業形態	講義	開講期間	集中	配当年次	1	授業番号	8008

●授業のテーマ

社会福祉方法論としてのソーシャルワークについての研究

●到達目標

1. ソーシャルワーク理論・方法についての定説を理解できる。
2. ソーシャルワーク理論とソーシャルワークの方法について、理論的に展開できる。

●学習内容(授業概要)

ソーシャルワークの実践理論・モデルと実務を結びつけ、理論・モデルに基づく対象把握や実践ができるように指導する。

とくに、3つの対象レベル(個人・地域・組織)におけるソーシャルワークの実践理論に基づき、対象の統合的な理解・把握、アセスメントをとりあげる。

また、ソーシャルワークの理論・モデルと結びつけて、自らの実践の計画・振り返り・改善を行えることをめざす。

修了要件はつぎのとおりとする。

- ①授業の出席は100%とする。やむを得ず欠席した場合は20%まで認め、レポートで代替。演習の欠席は認めない。
- ②遅刻については30分以内とし、遅刻3回で欠席1回とみなす。
- ③レポートを提出し合格すること。
- ④レポート不可の場合の対応あり。1回の再提出を認める。

●学習内容(授業計画)

1. 現行ソーシャルワーク論の課題(ソーシャルワークの定義と二つの支援プロセス)
2. 社会福祉基礎構造改革とケアマネジメント
3. ライフモデルとストレングス
4. バイスティックの原則
5. まとめ～討議等演習
6. ソーシャルワークの固有性と専門性(ソーシャルワークの構成要素)
7. ソーシャルワークの価値と方法
8. 業務、役割・機能と支援技術(対象者とその家族の支援展開)
9. 業務、役割・機能と支援技術についての演習
10. まとめ
11. 実存的・科学的支援技術(現象学的接近方法と実存性)
12. 体験過程スケール(実感の確かさを確認するための指標)
13. 実感形成を促進するための技術
14. 協働のコンテキストを創造するための技術
15. まとめ～演習を通して支援の実際を理解する

●準備学習・事後学習の内容

準備学習 テキスト等で、講義内容の下調べをし、よくわからないところを確認しておくこと。

事後学習 講義で学んだ内容を、納得できるところと疑問の残るところに区別してまとめること。

●成績評価方法・基準

- ①授業時のミニレポートおよび期末試験(レポート等)により、到達目標の内容を具体的に説明できることによって評価する。
- ②習得度は、授業時におけるミニレポート(40%)、学期末レポート(60%)により総合的に評価し、60点以上を合格とする。

●テキスト(必携)

《No.1.》書籍名：『実存的・科学的ソーシャルワーク エコシステム構想にもとづく支援技術』、著者名：安井理夫、出版社：明石書店、販売先：(株)Do、備考：2009年

●参考文献／その他

1. 太田義弘・中村佐織・石倉和宏編著『ソーシャルワークと生活支援方法のトレーニング 利用者参加へのコンピュータ支援』中央法規 2005年
2. 太田義弘編著『ソーシャルワーク実践と支援科学 理論・方法・支援ツール・生活支援過程』相川書房 2009年

●履修上の注意

認定社会福祉士の認証単位取得希望者に関しては社会福祉士有資格者に限る。